

# 實相寺 花園会報

「無縫塔」  
むほうとう

東海庵住職・妙心僧堂師家

岫雲軒

雪丸令敏老大師

(昭和十二年)

中国唐代の南陽慧忠国師(六七五)

七七五)は晩年、信者の代宗皇帝から

「貴方の死後何が望みは？」と尋ねられ、

「では無縫塔を建て欲しい」と答えます。

しかしこの無縫塔は単なるお墓ではありません。縫い目のない塔、つまり形のな

い塔です。皇帝もどの様な形か尋ねます

が、国師はしばらく黙って「判ったか」

と一言言い残して亡くなりました。

令和元年

五月一日発行

発行所

臨濟宗妙心寺派

陽明山 實相寺

實相寺花園会

〒761-0450

高松市三谷町

1811番地1

TEL087-889-3838

編集発行人

山本文匡

<http://www.jissouji.net>

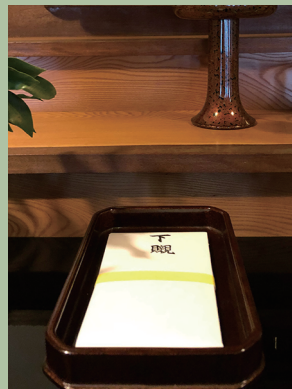
第121号

## 【3Pのつづき】

お供え物の置き方についても幾つかご紹介します。お料具膳は仏様が召し上がるのですから、向こう側に御飯やお汁、お箸がいくようにお供えます。同様の理由でお菓子や果物を供える際、下に敷く半紙の輪(折り目)は向こう側です。基本は私達が懷紙を使う時と同じ、「在ますが如し(いらつし



やるようにお供えすること)」です。しかし、こちら側に向けてお供えするものも幾つかあります。例えばお花の正面は仏様の方向を向いていません。お花は仏前を莊嚴するものですので、参列者から見た時に祭壇が厳かで美しく見えるようにお供えするのです。同様に、お香典を入れた金封やのし紙の掛かったお供え物、葬儀で述べた弔辞を靈前にお供えするなど、名前や文字の書かれた物をお供えする際は、参列者から読める方向でお供えするのが正しい置き方です。



5. フタに残った綺麗な灰を香炉に戻します。少しづつ灰さじで戻す方が周囲にこぼれません。また灰は香炉の七〇八分目が適量です。多すぎず、少なすぎず。

6. 香炉に戻したばかりの灰は空気を大量に含んでいる為、そのままではお線香が倒れ易く危険です。香炉全体を静かに「トントン」と床で少し叩き、灰を引き締めると共に表面を平らにします。



7. 灰さじがある場合は灰山をプリンのような円錐台に整えるとなお結構です。最後に香炉を拭き清めて終了です。

【香炉の置き方】

耳（取っ手のような飾り）のある香炉や燭台は、必ず耳が真っ直ぐ左右に来るように置きます。また三つ足の香炉や燭台は手前側に一本、向こう側に二本となるように置くのがきまりです。

## 「香炉のお手入れ方法について」

新たな気持ちで「令和」を迎えていると存じますが、時々仏壇の香炉が燃えかすで一杯なのを目にします。燃えかすが溜まるとお線香が深く立たず危険ですし、『俱舎論』<sup>くしゃろん</sup>は死者が香煙を食べると説いています。私達が気持ちよくお参りする為にも香炉は清浄を心掛けましょう。そこで香炉の掃除方法について説明します。



## 【用意するもの】

古新聞一〜二枚

紙箱一組（ある程度フタも深い箱がよい）  
金属製の網こし（天ぷらこし等を利用）  
灰さじ（大きめのスプーンでも可）

1. 新聞紙を大きく広げた上に香炉を置き、その両側に紙箱をフタとミに別けて置きます。
2. フタの上に網こしを置き、網こしの中に灰を入れてふるいます。この時灰を一度に沢山入れない方が効率的です。
3. 網こしに残った燃えかすは紙箱のミの方に捨てます。（終了後、フタをすれば箱ごとゴミに出せますので。）
4. 香炉の中の燃えかすが大体なくなるまで2〜3を数回繰り返します。